

平成30年度 名古屋市立高校生 海外派遣事業

ロサンゼルス派遣団 研修報告書

訪問先：アメリカ合衆国 （ロサンゼルス、サンディエゴ）

期間：平成30年8月18日（土）～8月27日（月）



*Nagoya City Students Study Tour
to Los Angeles 2018*

目次

海外派遣団員名簿 キャッチフレーズ 事前研修日程	・・・	1
現地研修日程	・・・	2
現地研修		
① ロサンゼルス市について	【名古屋商業】 三好 茉耶	・・・ 3
② USC と UCLA キャンパスツアー	【名古屋商業】 塚本 純菜	・・・ 4
③ 全米日系人博物館	【 北 】 山本 明向	・・・ 5
④ サンディエゴでのホームステイ	【 北 】 春日井 詩織	・・・ 6
学校訪問		
① ヒルトップ高校での高校生活	【 北 】 山本 明向	・・・ 7
② 日本の高校生との違い	【 北 】 春日井 詩織	・・・ 8
③ 学校の制度やルール	【名古屋商業】 三好 茉耶	・・・ 9
④ 日本語クラスについて	【名古屋商業】 塚本 純菜	・・・ 10
海外派遣に参加して		
① 夢への一歩	【 北 】 春日井 詩織	・・・ 11
② 大きくなること	【 北 】 山本 明向	・・・ 12
③ 人生の糧となる経験	【名古屋商業】 塚本 純菜	・・・ 13
④ 「当たり前」のちがひ	【名古屋商業】 三好 茉耶	・・・ 14
英文レポート		
① Changed My Perspective	【 北 】 春日井 詩織	・・・ 15
② The Two Most Impressive Places	【名古屋商業】 三好 茉耶	・・・ 15
③ What I Learned from People in LA	【名古屋商業】 塚本 純菜	・・・ 16
④ My Life in San Diego	【 北 】 山本 明向	・・・ 16
あとがき	総務 吉村 典子	・・・ 17

海外派遣団員名簿

学校名	氏名	学科等	Name	学年
名古屋商業高等学校	吉村 典子	教諭 総務	Noriko Yoshimura	
北高等学校	春日井 詩織	普通科 国際理解コース	Shiori Kasugai	2年
北高等学校	山本 明向	普通科 国際理解コース	Akimu Yamamoto	2年
名古屋商業高等学校	塚本 純菜	商業科	Junna Tsukamoto	3年
名古屋商業高等学校	三好 茉耶	国際経済科	Maya Misyoshi	3年

キャッチフレーズ

見るものの全てを自分のものに
 ～Try Everything, Enjoy Everything～

事前研修日程

回	月日曜日		主な研修内容	場所
1	5月25日	金	市立高校生海外派遣団 合同ガイダンス 団別研修 旅行会社より	教育館講堂
2	5月27日	日	ガイダンス	CA
3	6月 9日	土	英会話①自己紹介	CA
4	6月23日	土	英会話②学校紹介	CA
5	7月 7日	土	合同出発式 保護者説明会:旅行準備等説明会	CA
6	7月13日	金	名古屋紹介プレゼンテーション準備	CA
7	7月17日	火	英会話③現地教育事情、学校について	CA
8	7月19日	木	教育委員会(教育長)への表敬訪問	市役所
9	7月23日	月	研究発表、名古屋紹介プレゼンテーション準備	CA
10	8月 1日	水	名古屋紹介プレゼンテーション準備	CA
11	8月 3日	金	英会話④まとめ	CA
12	8月11日	土	事前研修まとめ	CA

現地研修日程

日	月日曜日		主な研修内容
1	8月18日	土	(7:30 集合)(9:25 出発)中部国際空港 大韓航空(KE)752 便 (11:25 到着／15:00 出発)インチョン国際空港(乗継) 大韓航空(KE)17 便 (10:10 到着)ロサンゼルス国際空港 空港到着後、専用車にて移動 午後 ゲッティーセンター見学、サンタモニカ視察
2	8月19日	日	午前 USC にてキャンパスツアー 午後 リトルトーキョー視察 全米日系人博物館訪問、日系人ガイドからの教育プログラム カリフォルニアサイエンスセンターにてエンデバー見学
3	8月20日	月	午前 ホテルチェックアウト後、UCLA にてキャンパスツアー 午後 サンディエゴに移動 Hilltop High School にてホストファミリーと対面後ホームステイ
4	8月21日	火	Hilltop High School の一般授業に参加 (バディと一緒にシャドーイング)
5	8月22日	水	Hilltop High School の一般授業に参加 (バディと一緒にシャドーイング) 日本語クラスにてプレゼンテーション
6	8月23日	木	Hilltop High School の一般授業に参加 (バディと一緒にシャドーイング) 日本語クラスの先生によるキャンパスツアー 日本語クラスにて書道
7	8月24日	金	Hilltop High School の一般授業に参加 (バディと一緒にシャドーイング) フェアエルパーティー
8	8月25日	土	午前 ホームステイチェックアウト後、ロサンゼルス市内へ移動 ステーブルズ・センター見学 午後 ハリウッドエリア視察
9	8月26日	日	ロサンゼルス国際空港へ移動 (12:30 出発)ロサンゼルス国際空港 大韓航空(KE)18 便
10	8月27日	月	(17:20 到着／19:05 出発)インチョン国際空港 大韓航空(KE)751 便 (20:55 到着)中部国際空港

現地研修①

ロサンゼルス市について

名古屋市立名古屋商業高等学校 三好 茉耶

私たちは今回の研修でロサンゼルス市を訪れた。そこは日本とは違うところが多く、驚いた。

1. 車社会

ロサンゼルス市は車社会で移動はすべて車だった。日本に比べて車の量が多く、車線が8つあるところもあった。そして高速道路が発達しており、利用が無料だった。ガイドの方に朝や夜の通勤ラッシュ時には渋滞ができると聞き、会社に通勤しようとするたびに渋滞にあうのは毎日のことなので本当に大変だと思った。私たちが空港に向かう時も、早めにホテルを出たが渋滞に巻き込まれてしまい、思っていたよりも時間がかかってしまった。また、歩いている人や自転車に乗っている人をほとんど見かけず、車がただ走っているだけでなんだか寂しい感じがした。



2. 観光地

私たちはサンタモニカやリトルトキーオーをはじめ多くの観光地を訪れた。その中でも私が特に印象に残っているのはハリウッドだ。ハリウッドというと映画、エンターテインメントの町で遊園地のような場所を想像していた。しかし、実際に行ってみるとイメージと違うところも多かった。私が一番驚いたのは、いきなりCDを渡し、お金を要求してくる人がいたことだ。派遣団の中にもCDを渡されそうになった団員がいる。歩いてい

たら真顔で胸元付近にまで手を伸ばし、CDを受け取らせようとしてきてとても怖かったと言っていた。私たちは事前にガイドの人に話を聞いていたから受け取ることはなかったが、知らなかったら受け取ってしまっていたと思う。改めて、自分の身を守れるのは自分だけと感じた。また、偽の着ぐるみを着て観光客と一緒に写真を撮りお金をもらう人がいたり、タトゥーショップが数多く並んでいたり、缶スプレーで店の壁に落書きがしてあることにも驚いた。今はインターネットで何でも調べることができるが、実際に行ってみないとわからないことがたくさんあるということを学んだ。

3. 再開発のエリア

最終日にはステープルズ・センターにも訪れた。ステープルズ・センター周辺は超高層ビルが並び、治安が良い都会の雰囲気だったが、数年ほど前は全く違ったという。運転中に赤信号でも決して止まてはいけないと言われているほど治安が悪かったそうだ。その話を聞いて、数年でここまで町の雰囲気が変わるのすごいと思った。数年後にまたロサンゼルス市を訪れたら全く違う場所になっているかもしれない。



USCとUCLAキャンパスツアー

名古屋市立名古屋商業高等学校 塚本 純菜

私達は、現地研修の中で世界大学ランキング上位にランクインしている二つの大学、南カリフォルニア大学（USC）とカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）を訪問した。そして、それぞれの学校を在校生に案内してもらった。

1. USCとUCLAの施設

初めに行ったUSCは、多くの著名人や優れた人材を輩出しており、彼らの寄付によって建てられた建物が数多くあった。その中には、私でも知っている著名人の名前がつけられた建物もあった。USCにはビレッジと呼ばれる、まるで一つの街のような一画があり、そこには寮とスーパーやカフェなどの商業施設が入っている。カフェで話をしたり、ベンチに座って本を読んだりしている学生達を見て、大学生活をとて楽しんでる様子が羨ましく思った。



UCLAは、坂が多く広大な敷地のため移動が大変だった。しかし、独特なデザインのキャンパスや歴史的な建物があり、変わっていく雰囲気や景色を見て歩くことがとても楽しかった。特に、大学内の都市伝説が印象に残っている。この都市伝説は学生だけではなく、現地のガイドさんや付き添いの先生も知っていた。学生以外の人にも認識されるほど有名な都市伝説がある大学というのは、それだけ注目が高い証拠であると思った。

UCLAではまた、11棟ある図書館の内、1棟の図書館を見学した。その図書館は映画に出てくるような内装で、異世界のように思えた。そん

な図書館で熱心に勉強している学生の姿が私からは輝いて見えた。

2. 在校生の話

案内してもらったそれぞれの学生から様々な話を聞いた。

USCを案内してくれた学生は、中国からの留学生だった。USCは、ニューヨーク大学と並んでアメリカで最も留学生が多い。彼女は中国語と英語はもちろん、今は日本語を勉強しているという。私も、英語はもちろん、別の言語を学びたいと思った。

UCLAの学生は、現地の人で、将来弁護士になるという夢を持っている。今は、犯罪者の心理について知るために心理学を学んでいて、更に副専攻で別の分野も学び、日々努力しているそうだ。自分の夢を持ち、その夢を叶えるために、未来の計画をしっかりと立て実現させていこうとしているその姿を、私も見習いたいと思った。



3. USCとUCLAの関係

どちらの大学ともスポーツがとても盛んである。スポーツ施設が充実していて、部活に入っていない生徒も気軽にスポーツを楽しむことができる。そして、USCとUCLAはライバル校としても有名である。学業やスポーツなどで競い合っていて、それぞれ自分の大学に誇りを持っていることがキャンパスツアーからも分かった。ライバル校である2つの大学を比較しながら見学することができてとても興味深かった。

我々は現地研修として全米日系移民博物館を訪れた。

1. 勤勉な働き手

アメリカ本土に移り住んだ日本人はそれぞれが異なる方法で生計を立てた。農業をする人や鉄道を引く人、ビジネスをする人などがいた。さらにそのところに始まり現在でも続いている和菓子屋があると聞いて驚いた。

2. 差別された理由

日系人はとても優秀だったため元からいるアメリカ人の職が失われるようになった。そのため、アメリカ人は日系人を拒絶するようになり差別が始まった。例えば、お金を銀行に貸してもらえない、名門大学を出ていても就職できないということが起きた。「犬と日系人はお断り」という店や「日系人受け入れ不可」と書かれた学校の看板が展示してあり、日系人が辛い思いをしていたことを知って大きなショックを受けた。

3. 強制収容所へ

真珠湾攻撃が始まるとアメリカ政府はマンソンズリポートと呼ばれる日系人の忠誠心の調査を行った。調査の結果、日系人の忠誠が証明されたにも関わらず、多くの人を収容所に送った。抗議の意を示すためにアメリカの軍服を着て収容所に送られている人の写真が目に焼き付いた。彼らは鉄線に囲われた中で、バラックと呼ばれる小屋の様な家に住まわされた。博物館には実際にバラックが展示してあり、実際に見ると、木と木の間が5 cmくらいでかなり広く開いていた。アメリカ政府はバラックを急ピッチで建てたため、乾燥していない木が使われ、しばらくして木と木の間に隙間ができたのである。その隙間からは砂や雪が中に入り、冬になると-28 度という寒さに達するような劣悪な環境で生活していたと知り、相当辛くて厳しい状況にあったことが分かった。そんな

環境にありながら、第二次世界大戦では忠誠を示すために 442 部隊と呼ばれる日系人のみの部隊を結成した。そして彼らが全部隊のなかで一番勇敢に戦ったという話を聞いて、日系人は差別されている中、なぜ国のために尽くしたのか分からなかった。

4. 第二次世界大戦後

戦争が終わると彼らは解放された。日系人たちは無条件で捕まったのは違憲であるとして戦後も訴え続けた。10 あるマンソンズリポートうちの1 つだけ残っており、日系人の忠誠が証明され、レーガン大統領が謝罪をし、1 人 2 万ドルのチェックが与えられた。完全に自由になった日系人だったが、彼らは自分たちが収容所にいたことを恥じて、子供たちには絶対に話さなかった。

5. 感想

私はここを訪れるまで来るまでアメリカの日系人の過酷な歴史を知らなかった。案内してくれた方が何回もおっしゃっていて印象に残っていることがある。「history は 2 つに分けると his story だ。だから、都合の悪いことは何も言わない。だから自分から学ばなければ本質を知ることができない。」今回、実際に博物館に足を運び、日系人の壮絶な歴史を知ることができ、差別に屈しなかった日系人たちを知ることができた。そして、それと同時に学ぶことの重要性を知ることができた。



サンディエゴでのホームステイ

名古屋市立北高等学校 春日井 詩織

我々は8月20日から8月25日までサンディエゴにてホームステイを体験した。

1. 生活の違い

ホームステイ先に着き、日本の玄関と大きく異なることに驚いた。聞いてはいたが、靴を脱ぐ場もなく、まさか就寝前まで靴を履いたまま過ごすとは思ってもいなかった。下駄箱のような靴をしまっておく場所もないため、ベッドの下にさまざまな種類の靴を置いており、お風呂上りにはビーチサンダルを履いて過ごしていた。

また、食事の回数の多さにも驚いた。日本では一日三食を基本としているが、ヒルトップ高校が終わるのが早いせいか3時ごろには夕飯を食べ終え、どこかに出かけていた。また帰ってきてからも同じくらいの量の食事を再びとり、一日計5回ほどの食事をしていた。その上一回の食事の量が多く脂っこいものが多かったので慣れるのに少し時間がかかった。



2. 文化の違い

食事のとき、日本では「いただきます」「ごちそうさま」と言う。しかし、私のホームステイした家庭では”Food is ready!”と言われ、席に着くとすぐ話をしながら食べ始めた。食事が終わると各自で食器を流し台に持っていくが、食べ残しは分別もせず、すぐに捨ててしまい、作ってくれた

人への感謝の言葉もなく、少し寂しく思った。



3. 多民族国家

私たちはメキシコの国境すぐ近くに位置する市にホームステイした。私がホームステイしたのは大きな集合住宅で、住人の多くがヒスパニック系アメリカ人なので表記や敷地内の人の会話はスペイン語だった。初めて海外へ行った私にとっては衝撃的で、英語だけの生活を頑張ろうと思っていた私は英語を話せない人がいるとは思ってもいなかったのが驚いた。始めは戸惑いもあったが、アメリカが多民族国家であると身をもって感じられ、良い経験になった。

4. ホームステイを終えて

私がホームステイさせてもらった家族の日常会話はスペイン語のため、英語で話していても訛りが強かった。そのため最初は会話にもよく詰まっていたが、分からない単語はジェスチャーを使うなどして、いろいろな話をし、ホストファミリーの明るさと優しさでとても充実した貴重な体験ができた。次第に英語も聞き取りやすくなり、私もミスを恐れず英語を話せるようになった。特にホストシスターとは話の内容も深まり、寝る直前まで話すくらい仲良くなれた頃に別れが来てしまったのでこれからもSNSなどで交流を続けていきたい。

ヒルトップ高校での高校生活

名古屋市立北高等学校 山本 明向

我々は8月21日から8月24日までの4日間、サンディエゴ郡チュラビスタ市にあるヒルトップ高校に通った。

1. 生徒の様子

アメリカの高校生たちは自由に生活していることに驚いた。ヒルトップ高校には制服がないため、生徒たちはそれぞれが好きな服装をしていた。服装だけではなく、ピアスをつけていたり、女子は化粧をしていたりと日本の学校では見ることのない光景に衝撃を受けた。

授業も驚きの連続だった。まず、遅刻する生徒が大勢いたことに驚いた。それなのに、遅刻してきた生徒は普段と同じように教室に入ってきて先生は何も言わない。また、授業中にも関わらず、朝食や昼食を食べたり水を飲んだりしていた。授業の終了間際には、生徒たちはリュックサックに荷物をしまい、いつでも帰られるようにし、チャイムと同時に教室を飛び出すかのように出て行った。このように、日本人からすれば先生に失礼ではないかと思うようなことが普通のことであるところに大きな違いを感じた。



2. 先生の様子

アメリカの先生も生徒たちと同様に自由だった。先生は自分の教室を持っているため、自分の教室を好きなように飾り付けをしていた。例えば、人形を置いたり、ポスターを貼ったりしていた。

教室の飾りから先生の個性が出ていて、教室を見るのも面白かった。さらに、一番驚いたことは先生が授業中にコーヒーを飲んでいて、教科書やプリント片手にコーヒーを飲みながら授業をしていた。

3. 授業スタイル

授業スタイルがとても興味深かった。ノートパソコンが全生徒に貸し出されており、私が受けた授業の中では英語と数学の授業でパソコンを使っていた。数学では、グラフをパソコンで描いていた。英語では、宿題や授業の予定がメールで送られており、テキストがパソコンに入っていた。授業はプリントが中心でノートをとる授業がほとんどなかったため、ノートをとらない授業は少し寂しい気がした。

授業はまた、グループワークが多かった。4、5人のグループで先生から与えられたお題をみんなで話し合いをして自分たちなりの答えを出し、最後に自分たちの出した結論を発表する授業だった。このような授業を通して、生徒たちはお互いコミュニケーションを大切にしていると感じた。先生もまた生徒とのコミュニケーションを大切にしており、授業中の生徒たちの積極的な発言に必ず反応して、会話を楽しんでいた。

4. 感想

この4日間は日本とアメリカの高校のギャップに驚きの連続だった。そして、日本とは全く違う高校生活を送ることができてとても楽しかった。このような体験は初めてで、とても緊張していたが、生徒や先生方がとても気さくに話しかけてくれて緊張はすぐにほぐれ、「ここに転校したい」と思ったほどだ。4日間という短い時間だったが内容の濃い、充実した時間を過ごすことができた。

日本の高校生との違い

名古屋市立北高等学校 春日井 詩織

1. 見た目

アメリカの高校生は日本の高校生と比べて、体格がしっかりしており、身長も高い生徒が多かった。体格以外の理由でなぜそう大人っぽく見えるかを考えると、日本より校則がとても自由で、自己を表現しやすいからだと思った。あまりにも露出が多い服の生徒は注意されていたが、おおむね服装は自由、頭髮やピアスやメイクも自由であった。さらに驚いたことがあった。それは、タトゥーをしていることだ。日本では昔からの風習からか、タトゥーをすること自体があまり良いと思われていないため、アメリカの高校生がタトゥーをしていることにとても驚いた。逆に、日本ではタトゥーがあまりよくないとされていることに驚かれた。



2. 授業の様子

授業では生徒たちは黙々と作業をするだけでなく、思ったことを発言し、先生とコミュニケーションをとる場面が多くみられた。そのためか、日本のように授業中寝てしまう生徒は少なく、授業をしっかり受けている人が多かった。授業はグループワークが多いのでみんな楽しそうに授業を受けている感じだった。例えば数学の授業で、分からないところはまずお互い自分の意見を言い、間違いを恥ずかしがらずディスカッションをしていた。

もう一つ良いと思ったことは、先に述べたグループワークのように疑問はその場ですぐに解決しているという点だ。日本での授業は静かに説明を聞き、授業後に質問することが多い。ヒルトップ高校では、特に大学進学に特化した授業をとっている生徒たちが積極的に質問をしていた。私は先生にあまり質問しないので、自分の成績をより向上させるために、これから先生に積極的に質問をしたいと思います。



3. 放課後の過ごし方

日本の高校生は授業後部活が終わってから友達と遊びに行くことが多い。しかし、ヒルトップ高校の部活はそれぞれ活動期間が決まっているので活動がない時期はすぐ家に帰る生徒が多かった。私のホストシスターを例に挙げると、サッカー部に入っているが、私がいた時期は活動がないので、放課後すぐに家に帰り、ご飯を食べてから遊びに出かけていた。しかしその前に宿題をする時間が毎日決められていたので、メリハリをしっかりとつけているなと思った。また、間違いをゼロにするまで寝ないと自分で決めており、まだ高校一年生なのに目標大学に近づくため毎晩遅くまで勉強していた。その姿を見て、私も楽しむときと勉強のメリハリをつけ、将来の夢のために努力をしたいと思います。

学校の制度やルール

名古屋市立名古屋商業高等学校 三好 茉耶

私たちは、8月21日から24日までの4日間ヒルトップ高校に通った。この高校は4年制の学校で全校生徒は2000人もいた。私はその中で学校の制度やルールの日本との違いに特に驚いた。

1. 学校の制度

私が一番驚いたのは毎日同じ時間割だということだ。日本だと週単位で授業が組まれて一年間同じ時間割だが、アメリカは生徒が自分で科目を選択し、毎日同じ科目を受けていた。毎日同じ科目をやる方が授業内容を忘れることがなく効率が良いと思った。私のホストシスターは、高校の授業だけでイタリア語が話せるようになったと言っていた。たった2年で身についたのは本人の頑張りももちろんあると思うが、この学校制度によるものではないかと思った。科目数も多く、日本にないシアターという自分たちで演劇を作り上げていく授業やドライバーライセンスという運転免許を取るための授業もあった。他にも教科書やノートパソコンは個人で買わず学校が貸し出す、教頭先生が4人いて、生活指導をしているなど多くの違いがあった。

2. 学校のルール

ホストシスターと一緒に授業を受ける中で、学校のルールの違いも見つけることができた。日本だと授業中に飲食する、勝手に教室内を歩き回る、クラスメイトと大声で話すなどは全て注意されるが、ヒルトップ高校では先生にもよるが許されていることが多かった。逆に、日本では授業中に居眠りをしている生徒を見かけるが、ここではそのような生徒を見かけることがほぼなかった。つまり、先生の話を聞いていればあとは自由ということだ。そんなところからもアメリカの自由さを感じた。



3. 学校の時間配分

ヒルトップ高校の始業、終業時間も日本の学校とは違った。この高校には0時間目というものがありその授業は朝の6時30分から始まる。普段私が起床する時間から毎日授業があるのは大変そうだ。いったい何時に起きればいいのか、体もたないと思う。だが、学校の終わる時間は2時40分ととても早い。部活動は週に2回ほどしかないので授業後は友達と出かけたり、習い事へ行ったりと自由に過ごすことができると言っていた。私は授業後毎日部活動があるので、遊びや習い事もできるアメリカがうらやましいと思った。そのほかにもミニマムデーと言って午前中だけで6時間目まで終わったりする日があったり、休み時間が5分しかなくその間で移動しなくてはならないのでお手洗いにいく時間もなかったりと日本と違う点が多く戸惑うことが多かった。



日本語クラスについて

名古屋市立名古屋商業高等学校 塚本 純菜

1. 日本語クラスの生徒

私達が訪れたヒルトップ高校の生徒達は自分で時間割を組む。その中で日本語を選択している生徒は約100人ほどだった。他の言語のクラスがあるにもかかわらず、日本語を選んでくれた生徒が多くいることに感動した。なぜ日本語を選んだかと聞くと、日本の文化に興味があったからという生徒が多かった。具体的には、日本のアニメや車、食べ物に興味があるそうだ。日本語クラスはレベルが1～7に分けられている。レベル1のクラスは、ひらがなの書き方を勉強しているのに対して、レベルが上のクラスは、漢字を使った日本語の文を書くことができ、日本語で冗談が言えるほどだった。ただ日本語の文を書くだけでなく意味を理解して日本語を使っていることが素晴らしいと思った。そして、中には日本を訪れたことがある生徒もあり、最終日には、お好み焼きを一緒に作った。日本の食べ物を食べて生徒達が笑顔になる姿を見て嬉しかった。



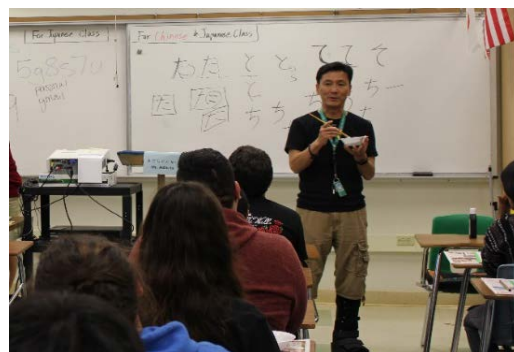
2. 日本語クラスの授業

日本語クラスの授業は、日本の学校と同じように、「起立、気をつけ、礼、着席」と日直が号令を掛けて始まる。他の授業ではやらないことのため、生徒達は恥ずかしそうにしながらもしっかり行っていた。そして、日本語教師のことを「先生」と日本語で呼んでいた。ぎこちない日本語ながらも、日本語を一生懸命話そうとするその姿を見て、胸を打たれたのと同時に、英語に自信がな

かった私にとっては、自信がなくても相手に伝えようと「話すこと」が大切ということを知った。授業では、日本の英語の授業のように言語だけを勉強するのではなく、日本の商店街や浴衣、日本の航空会社のおもてなしについてなど、日本の文化についても重点的に勉強していた。言語に力を入れている日本に対して、その国の文化やマナーについて学んでいたことは、多国籍文化のアメリカならではのと思った。

3. 日本語教師

私は、将来日本語を外国の方に教える日本語教師になる夢を持っている。日本に興味を持っていて日本語を学びたいと思っている外国人をテレビで見て、力になりたいと思ったからだ。実際にヒルトップ高校で日本語の授業を受けて、より日本語教師になる夢を叶えたいと思った。私にとっては、英語で日本語の文法や発音について説明していたことが印象的だった。当たり前のことではあるが、日本語を外国の方に教えるには、日本語の知識を増やすことはもちろん英語をしっかり身に付ける大切さを知ることができた。身につけなければ、相手に理解してもらえないような説明ができなくて困ることがあると思うので、これからより一層英語の勉強に励んでいきたい。また、授業を受けていて、先生から日本のことが大好きという気持ちが伝わってきた。海外で日本の文化や言語を教えるということは、誰よりも日本を愛する気持ちも必要であることを知った。



1. 私の研修の目標

私の夢はキャビンアテンダントになることだ。それには英語力やおもてなしの心が必要だと思っている。そして、様々な文化の方と接する仕事なので、それらを学ぶ一歩にしたいと思い、研修に参加した。そのために多くの人と話をし、積極的に交流をすることを目標とした。具体的には、疑問に思ったことや気になったことはすぐに質問し、日本と海外の違いを多く見つけられるようにしようと心に決めた。

2. 事前の準備

私たちは各々現地研修に向けて毎日やることを決めた。私は英文のニュースを読み、現地の様子を知ったり、またスケジュール帳に予定を英語で書いたりして、日常的に英語に触れる機会を増やすようにした。

プレゼンテーションの作成、練習では、ネイティブの先生からの質問を受けて、日本のことを知らない生徒にもよりわかりやすいよう工夫をした。自分たちにとって当たり前すぎて気づけなかったことにも気づくことができた。

3. サンディエゴ・ロサンゼルスでの体験

サンディエゴでは、ホームステイとヒルトップ高校にて体験入学をした。立地しているところがメキシコの近くであるためスペイン語を話せる生徒も大勢いた。初めはこんなにも周りにスペイン語を話す人がいることに驚いてしまったが、これがとても良い経験となった。今までは英語を話せるようになり、他国の文化を理解できればいいと思っていたが、その国の言語を知り、話すことは相手を喜ばせ、より良い関係を生むことをホームステイでの体験を通して学んだ。ホストファミリーが日常使っているスペイン語の単語を教えてもらい、話してみるととても喜んでいたり、私も日本語を教え、話してくれた時はうれしかった。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

この研修での経験は、私にとって将来への大きな糧となった。海外に行ったのが初めてだったため、日本とアメリカの文化があまりにも違うことにとても驚いたが、その分色々なことを知り、吸収することができた。目標だった積極的に質問するということについては、UCLA や USC、学校交流にて達成することができた。そのおかげで英語が聞き取りやすくなり、日本との違いもたくさん見つけることができた。それに加え、将来の夢への糧になるものを見つけることができた。例えば、ホームステイ先で自分の母国語を知ってもらうことはうれしいことだと知った。この経験から、英語以外の言語も学び、文化を知り、より良い接客ができるキャビンアテンダントになりたいと思っている。

<課題>

私の将来の夢をかなえるには、英語力が不可欠だ。しかし、今回の海外研修中の会話で困ったのが単語力のなさだった。日常生活に使う単語が出てこなかったため、会話に詰まってしまった。この反省と貴重な経験を生かして、夢を実現するために、まずは英語力の上達に力を注ぎ、他言語も習得したい。



大きくなること

名古屋市立北高等学校 山本 明向

1. 私の研修目標

私の研修目標は「視野を広げて大きくなる」であった。私は海外旅行に行ったことはあったが、すべて観光目的だったため、現地の生活に触れたことがなかった。今まで日本人の考え方しかできなかった自分を変えたい、そしてアメリカで生活することによって日本人という殻を破り内面から大きくなりたいと思い研修に臨んだ。

2. 事前の準備

事前研修を通して地元について知り、それを人に使えることの重要性を知ることができた。私たちは名古屋市を紹介するプレゼンテーションを作り、ロサンゼルス出身の先生に見てもらった。プレゼンテーションが終わった後にたくさん質問されたが、説明に困ってしまい自分の地元に対する知識のなさを痛感した。

3. サンディエゴ・ロサンゼルスでの体験

ロサンゼルスではアメリカの良い面だけではなく別の面を見る事ができた。特にハリウッドに訪れた時にそれを感じた。そこは観光地でたくさんの観光客がいて華やかさを感じる事ができた。その一方でホームレスがいたり、海賊版のCDを押しつけられたりして怖い思いをした。

サンディエゴで体験入学をした学校はヒスパニック系の生徒が多かった。私のホストファミリーもメキシコ系アメリカ人で、ホストマザーがスペイン語しかできなかったため家族同士ではスペイン語で話していた。だから、滞在中にスペイン語が至る所で聞こえてきた。なぜ英語を話せるようにならないか疑問に思ったが、スペイン語を話す人が多いため英語が話せなくても生活に困らないと分かった。アメリカは英語圏の国だがスペイン語も話している地域もあると分かった。また、いくら英語に接していても、自分が学ぼうという気持ちがなければ習得できないと思った。

4. 研修の成果と今後の課題

〈成果〉

何でも一人で、しかも英語でやらなければいけない事ばかりだった。はじめは出来るか不安だったが、思った以上に自分の英語が通じてうれしかった。現地の高校の授業や生徒たちと交流することで日本人の私からしたら衝撃的なことも多かった。そして、その衝撃的なことは私にとって新鮮だった。また、そこから新しい文化を知ることの楽しさと面白さを知ることができた。新しい文化を体感したことで視野が広がり、大きくなれたと思う。

〈課題〉

英語を使うことはできたが、満足できるほどではなかった。時々、うまくコミュニケーションが取れないことがあった。そのときにすごくもどかしい気持ちになり、自分の英語力はまだまだだと痛感した。これからも英語の勉強を続けて、またアメリカに行ってリベンジしたいと思う。

私はこの派遣でアメリカの生活に触れていろいろな考え方ができるようになったと思う。しかし、もっと大きくなれると思う。そのために、世界についてもっと関心を持ち、考えていきたい。そして将来、さらに大きくなって世界で活躍できるような人間になりたいと思う。



人生の糧となる経験

名古屋市立名古屋商業高等学校 塚本 純菜

1. 私の研修の目標

私の研修の目標は、この派遣を通して人として一回りも二回りも成長することであった。私は、高校生活で何事にも挑戦することを目標としている。私は高校に入学してから、生徒会や商品開発等に挑戦してきた。そのおかげで、徐々に自分に自信が付き、自分の可能性をより広げたいと思うのと同時に、人生の糧となるような経験を卒業するまでにしたかった。高校一年生の時に、先輩方の報告会を見て初めてロサンゼルス派遣を知り、旅行という形ではなく、高校生のうちに研修として海外を訪れるということは必ず自分にとって財産になると思い、この派遣に参加することを決めた。

2. 事前の準備

私は自分の英語にあまり自信がなかった。しかし、この派遣のために英語を勉強していて、英語の面白さや大切さを知った。それと同時に自分以外の人の英語力の高さにとても焦る気持ちと悔しい気持ちが事前の研修中にはいつもあった。もっとうまく英語を話したいという気持ちのおかげで、英語の力は以前よりとても上がったと思う。

3. サンディエゴ・ロサンゼルスでの体験

サンディエゴでホームステイ中、ホストシスターの友人の家に連れて行ってもらった。友人の両親はスペイン語しか話せなかったが、私のことを日本から来たのだと友人が両親に紹介してくれた。すると笑顔でハグや握手をしてくれ、とても歓迎してくれていると感じた。

また、ロサンゼルスでは買い物をしている時、店員にどこから来たのか尋ねられ、日本から来たと言えると、ようこそロサンゼルスへと歓迎してくれた。そして、日本に一度行ってみたいと話してくれた。言葉が通じなくても、お互いに関心を持つことが相手を理解する第一歩であることを学んだ。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

この派遣を通して、日本にいただけでは気づくことができない素晴らしい人柄や文化など学ぶことができ、見習いたいと思うことが多々あった。そして、海外に行くことで、日本の良さを再確認することができた。私は、この派遣に勇気を出して挑戦してよかったと心から思う。その理由は、自分から学びたいという姿勢があれば、想像以上のことを体験することができ、それが自分の人生の支えになることを知ることができたからだ。



<課題>

この派遣を通して、事前研修を含めいつも英語に苦戦をしていた。そして、今回の経験から英語に限らず、その国について知ろうと思うと、その国の言語を知る必要があることを学んだ。そのために、まず基礎である英語の勉強により一層励んでいこうと思う。また、他国について知るだけでなく、日本についてももしっかり説明できるように知識を増やしていこうと思った。



「当たり前」のちがい

名古屋市立名古屋商業高等学校 三好 茉耶

1. 私の研修の目標

私は以前「主要8都市の中で名古屋市は魅力度最下位の都市」という記事を見て、自分の住む町が最下位だと知りがっかりした。だから私は多くの人が名古屋に行ってみたいと思えるような魅力を英語で伝えるという目標を立てた。

2. 事前の研修

私たちは12回ある研修のうち6回の研修で名古屋を紹介するプレゼンテーションの準備、練習をした。プレゼンテーションを作る上で難しかったところは、モーニング文化や日本式の結婚式など日本人には馴染みがあるが、海外の人はよく知らない日本文化についての説明だ。AETの先生から「全く日本を知らない人が見ても分かるように」とのアドバイスを受け、私たちはその言葉を意識し、どのように説明したら理解してもらえるか、そしてどんなふうにしたら楽しんでもらえるか、興味をもってもらえるかを考え、意見を出し合った。



3. サンディエゴ・ロサンゼルスでの体験

私たちはヒルトップ高校体験入学の2日目、練習してきたプレゼンテーションをした。はじめ現地の生徒たちは愛知県がどこにあるか知らず、名古屋という都市の名前も初めて聞いたと言っていた。しかし、クイズ形式にしたり「草薙の剣」「本丸御殿」などの難しい日本語を一緒に発音したりするなどしてコミュニケーションをとりながら、

いろいろな視点から名古屋を紹介した。プレゼンテーションが終わった後、感想を聞いたら「アメリカと違うところが多くて驚いた」と言っていた。その言葉を聞いて「自分たちの当たり前がみんなの当たり前ではない」ということを実感した。

4. 研究の成果と今後の課題

<成果>

このプレゼンテーションにより、現地の生徒たちに名古屋を知ってもらうきっかけを作れたと思う。そして私自身、プレゼンテーションを通じて日本とアメリカの違い、日本の文化や伝統の良さを改めて実感することができた。また海外の方とコミュニケーションをとるには、日本の「当たり前」が海外では必ずしもそうではないということをもっと理解し、物事をいろいろな視点から見ることの大切さを知ることができた。

<課題>

私はこの派遣に参加してもっと英語の勉強を頑張ろうと思った。たしかに単語を並べて話せば相手に言いたいことを伝えることはできるが、研修中何度も「もっと英語の勉強していれば」と感じた。言語はツールであって目的ではない。だが、語学の勉強をしているとより深い交流をすることができると思う。私は高校を卒業したら就職するので英語の授業はなくなるが、この経験を忘れず、英語の勉強を続けていきたい。



I had a lot of really good experiences. Actually, it was my first time to go abroad. So, I could find a lot of different things and I could feel everything was new. I'd like to share the most impressive experience.

Firstly, when I visited USC and UCLA, students who went there did a campus tour for us. I learned about these universities by talking with them, and it made me want to improve my academic ability to enter similarly good universities. Before visiting these university, I was not interested in university in other countries. However, now I'm interested in universities outside Japan. The reason is that there are many fields of study and I think I can learn about what I am passionate about on a deep level. It would be a shortcut to achieve my dream.

Secondly, I really enjoyed my homestay. At first I was shy, since I was ashamed of making mistakes in English. But I noticed I could enjoy talking in English. So, I tried to talk with a lot of people. I think my listening ability has improved. I want to continue to listen to English though movies, music and more.

I want to say "Thank you" to everyone. I learned a lot of things which helped my dream, to become a flight attendant. For example, if I know other languages, passengers will be happy and I think I can care more about people from various countries. I want to share this wonderful experience with my friends and the many people who are interested in studying abroad. And I want to express my gratitude to everyone who gave us this opportunity.

I went to Los Angeles and San Diego from August 18 to 28. I had many good experiences. Among them, the Japanese-American National Museum and Hilltop High School were the two most impressive places.

On August 19, I went to the Japanese-American National Museum. Last year, I studied world history at school, but I didn't learn about Japanese-American history at all. Mr. Magami, our guide, told us about Japanese-American's troubles with discrimination. I was really surprised, and at the same time I thought Japanese people should know about them. Mr. Magami said to us, "Your willing to learn is important." When I heard his words, I decided to learn more about history,

From August 21 to 24, I went to Hilltop High School. I was surprised because this school was very different from school in Japan. This school begins at 6:30. During the class, students play with their smart phones, take pictures, and walk around. In addition, students go to school by car. There are no school uniforms and homeroom class. I want to stay there more because everything was new. I realized that both Japanese school and American school have good points.

I have new goals now. I want to know about my country and world as much as possible, and I want to speak English so that I can communicate with different people. Therefore, I will learn about history and keep on studying English. I'll never forget this study tour because I learned a lot, and will share this experience with people.

Tsukamoto Junna, Nagoya commercial high school

I joined an overseas study tour this summer. I had a wonderful experience in Los Angeles. I met many people and talked with them. I'd like to share two people who influenced me the most.

First person is Mr. Magami, a guide at the National Japanese-American Museum. I could learn about Japanese-Americans there. In addition, I learned the important things in our lives from Mr. Magami. I was especially impressed by his following words: "You need to know about modern history to become a global person." We learn a lot about ancient history at school, but we learn less about modern history. I thought we don't have to learn modern history because it's similar to now. However, Mr. Magami's story told me that it is necessary to know modern history in order to know the current state of the world.

Second person is Sedova, my host sister. She was so fun. When we went to her friend's home, she was excited to be with her friend. But when she was at school, she studied hard. I noticed that she didn't only enjoy her private life but also worked hard. I learned the importance of balancing work and play. I tend to work too hard, so I knew that it's necessary to take a break and enjoy myself.

Through those people I met in LA, I could think about myself and my own lifestyle. I learned a lot of important things from them. I will make use of this wonderful experience in LA for my future.

Yamamoto Akimu, Kita high school

I had a great experience in San Diego. I was really excited to stay with a family and attend classes with my host sister in high school there. I'd like to tell you four things I was impressed and surprised at. Three things are about the school and one thing is about my homestay.

First, the school was so huge, and it had about 2000 students. I thought this was a big difference between Japanese and American schools. I was really surprised by the scale of school but one student told me that they actually thought their school was a small school. Second, the starting time for school was so early. The first class started at seven thirty! However, my host sister took an even earlier class called 0 period, which started at six thirty. I had to get up at five to go with her and it was so hard for me to get up early. Third, students and teachers have freedom. My host sister's school did not have school uniforms, so they wore their own favorite clothes, earrings, and many girls put on makeup. They didn't look like high school students! They also ate and drank during class. This was the most surprising thing to me. They ate and drank even when the teacher was talking, which I felt was rude to the teachers. At the time, I felt a cultural difference through knowing what was allowed in America. Fourth, I was surprised that there were people who couldn't speak English in America. San Diego is located near Mexico, so many Mexican people live there and speak Spanish. My host mother was Mexican and she couldn't speak much English. She didn't seem to have any problems though since many residents there spoke Spanish. I thought that we would be able to speak a country's language if we lived in that country, but I now know this is not necessarily true.

I will never forget meeting people in San Diego, and I am really happy I met them. They welcomed me warmly. I also could be a member of my host family. If they can make it to Nagoya someday, I want to welcome them like my own family. At last, I want to thank the people who made it possible for me to have this special experience. I will be a person who is active globally in the future.

一昨年度始まったロサンゼルス派遣に本年度も北高等学校と名古屋商業高等学校から合計四名の生徒が参加し、アメリカのロサンゼルスとサンディエゴにおいて10日間の研修を行った。昨年度までと大きく異なる点は、現地校での研修の充実である。ロサンゼルスでの研修後、サンディエゴ郡チュラビスタ市にあるヒルトップ高校に4日間通った。ヒルトップ高校の生徒の家にホームステイをさせてもらい、学校でもその生徒と共に一日中過ごした。したがって、4名それぞれが放課後だけでなく、学校においても全く異なる経験をする事ができた。

事前研修ではロサンゼルス出身の Leah Turner 先生を講師としてお迎えし、語学のみならずアメリカの学校や教育制度についても学んだ。また、自己紹介や学校紹介のプレゼンテーションを見ていただき、日本人ではない視点からの質問をされ、生徒たちは戸惑うと同時に今までとは違う角度から物事を考える機会を得ることができた。更に現地での研修をより実りあるものにするためには限られた回数の事前研修だけでは不十分であると考え、毎日英語の学習をすることとアメリカに関するニュースを記録することを課題とした。英語でニュースを読んだり、英語で日記を書いたり、生徒たちは自己研鑽に励んでいた。そして研修の場で情報を共有することによって、知識を増やすことができただけでなく、お互い良い刺激になっていたように思う。その結果、当初は漠然としたイメージしかなかったアメリカであるが、事前研修の回数を重ねるにつれてより具体的になっていった。

現地研修はまずロサンゼルス研修から始まった。訪れた場所で特に生徒たちの心に残ったのは全米日系人博物館である。初めて聞く日系人の歴史の話に生徒たちの顔は真剣そのものだった。ここではまた「国際人になるには近代史が大切」「思って行動したら必ず叶う」といったガイドの方の話の随所に散りばめられたメッセージが生徒たちの心に強く響いた様子であった。ロサンゼルス研修後はサンディエゴへ移動し、到着後すぐホストファミリーと過ごし、翌日からはホストシスターと1限から現地校の授業に参加するという英語だけの生活となった。ヒルトップ高校では実際に授業を受けることによって、日本との授業や学校制度の違いを身をもって体験することができ、生徒たちにとってかけがえのない経験となった。そして学校だけでなく、ホームステイ先でもそれぞれが貴重な経験をしていた。生徒たちのホストファミリーはヒスパニック系アメリカ人で家族はスペイン語を話す家庭が多く、戸惑いを隠せない生徒もいた。しかし、4泊5日という期間で生徒たち全員がホストファミリーの一員となり、別れを惜しんでいた。

ヒルトップ高校では授業に参加するだけでなく、日本語クラスの時間をいただきプレゼンテーションを行った。レベルの異なる3つの日本語クラスで、名古屋の魅力を紹介するプレゼンテーションを行い、残りの時間は質疑応答を行った。事前研修で時間をかけて準備したプレゼンテーションは、ただ一方的に話すのではなく、クイズを入れたり質問したりと対話を意識したものとなり、練習を重ねたこともあり自信をもって堂々を行うことができた。1時間ずつ計3時間行い最後のクラスが終わるとさすがに疲れた様子であったが、やり遂げた達成感も感じられた。日本語クラスでは、プレゼンテーション以外に書道の授業もさせていただいた。名前を漢字に直してあげたい、という生徒たちからの申し出を日本語クラスの先生が快く承諾してくれ、2クラスで実施することができた。教室を回って教えている姿は生き生きとしていた。

10日間という短い期間であるが、アメリカでの充実した日々は生徒たちのこれからに大きく影響を与えるものとなったと確信している。現地での経験、そして人々との出会いを通して生徒たちの視野は広がった。自分の意見を言うことの大切さ、何事にも積極的にそして全力で取り組む姿勢、違いを受け入れることの大切さなど、どれも現地での生活を通して学ぶことができた。この研修で得たことを周りに伝えることが派遣団のこれからの役目である。言葉で伝えるだけでなく、彼ら自身が変わり、それが周りに良い影響を与えてくれることを期待する。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係各機関、そして日米両国においてこの派遣でお世話になった全ての方々に感謝の意を表したい。